

令和4年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

(その1)

目指す 学校像	一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校（信頼される安心安全な学校・明るく活気のある学校・地域とともに歩む学校）				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成 状況	
<p>進路指導については、定期的な進路ガイダンスの実施、日常的な進路相談等により、生徒の意識、意欲が高まった。特に就職では、地元企業を中心に学校推薦による就職内定率が100%であり、進学、就職ともに、ほとんどの生徒が目標を達成した。生徒向け学校評価アンケートの結果によると、「将来の目標をもって日々努力した」との回答が約85%であり、自己実現のために生徒が教職員ともに取り組む姿勢が見られる。また、「友人を大切にしている」「いじめのないように行動や言動に注意している」との回答は約95%である。良好な人間関係を構築し、生徒ファーストの精神で日常的な学習活動や進路指導、特別活動の充実をはかる。</p> <p>神栖市と市内3高校の包括連携協定が3年目を迎えた。新たな取り組みに挑戦するとともに、異校種間交流をさらに深める。開かれた学校づくりを推進するために、教育活動についての情報を発信し信頼感と連携・協働の意識を高める。</p>	学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着を目指した生徒の学習習慣の確立 ② 主体的で対話的な学びができる学習態度と異なる価値をもつ他者と協働できる学習態度の涵養 ③ 生徒の発達段階を考慮したユニバーサルデザインの視点に立った授業の工夫		B	
	特別活動・部活動	④ 主体性の育成を意識した学校行事や生徒会活動、常任委員会活動の実施 ⑤ キャリアパスポートと学校行事や教育活動との積極的かつ効果的な紐付け ⑥ 健康で安全な生涯を意識させた教育活動や部活動の実施		B	
	生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上		B	
	進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化 ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進		B	
	地域・関連 機 関 と の 連 携	⑭ 関係諸機関との連携事業の実践（神栖3 ココシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等） ⑮ 地域とともに歩む事業の実践（柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業） ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な発信		B	
	働き方 改 革	⑰ 全職員の連携と業務の効率化 ⑱ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識の浸透		B	
三つの方針	具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題	
「三つの 方針」（ス クール・ポ リシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標）○自己実現に向けて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財。 ○個性や多様性を相互に認め合うことができる、心豊かな人財。 ○学校で培った資質や能力を生かして地域社会に貢献できる人財。		B	小規模校の特性を生かし、一人一人の生徒に寄り添い、指導、支援する体制を確立する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標）○主体的で対話的な授業の展開により対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための学習活動の展開。 ○学校が地域や社会 連携・協働しながら生徒の成長を支え、地域に貢献できる生徒の育成を図る。		B	生徒の進路目標を踏まえ、地域との連携を深めながら、生徒の意欲や能力を引き出す学習活動、特別活動を展開する。
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	（短期的目標）○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守ろうとする生徒。 ○自分の進路を切り拓くために挑戦できる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協同して積極的に取り組む生徒。		C	本校の教育理念を浸透させるために、広報活動や地域との協働の機会を開発していく。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	授業が楽しいと回答する生徒80%	指導方法を工夫して生徒が学びやすい授業環境をつくるために、校内研修を実施する。①②③⑤	C	C	・4月の段階でスクールポリシーに沿った共通理解を得られる研修を実施する。 ・継続目標にする。
	学校が楽しいと回答する生徒80%	教員にしかできない言葉かけなど、発達段階を考慮した教育支援のできる環境をつくる。②③④⑩	B		
		行事や各活動において目標を可視化・顕在化して、目標に向かう態度を育成できる活動をする。②④⑫	C		
		行事や各活動へ主体的に取り組めるような掲示などを工夫する。②④	B		
進路指導	望ましい行動を引き出し、生徒の行動を強化する。	全教科でリアクションシートの通年実施をし、表現力の向上を目指す。①②⑩	C	B	・総合的な探究の時間と行事のバランスを考慮たうえで計画実行する。具体的には3年生の探究発表を7月に実施できるように計画する。 ・課外(ゼミ)の活性化をする。
	活発な言語活動を実践する。	生徒の意識を高める進路ガイダンスを実践する。⑩⑫	A		
		ICTを活用した授業や単元テストで言語活動の実践を促す。②③⑩⑫	B		
		進路ガイダンスや総合的な探究等に言語活動を組み込む。①②⑫	A		
	適切な進路指導をする。	3学年の最終進路決定100%を目指す。⑪⑫⑬	A		
		2学年末までに90%の生徒が希望進路を決定することを目標とする。⑩⑫⑬	B		
適正な文書処理や真摯な生徒対応をする。⑫⑬		A			
生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	B	B	・問題行動の未然防止 ・交通事故防止 ・SNSに関するマナー向上 (横断的な指導・継続指導) ・生徒の多様なニーズに対する対応
	健康・安全に対する意識の向上。	遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	B		
		病気・交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑥⑧	B		
	携帯電話の使用マナー向上。	登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑥⑧	B		
		校則を理解させ、節度ある使用を心懸けさせる。⑦⑨	B		
	外部講師を招き、SNSに関するマナー・トラブルを理解させる。⑦⑨⑭	A			
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る	快適な学習環境を目指し、組織的な環境美化活動を実践する。③⑥⑰	B	B	・感染症対策(換気・消毒)の奨励 ・環境美化に対する意識を高める。全校生徒による清掃活動の徹底。安全点検による要修繕箇所の速やかな改善を図る。ストーブ・加湿器等の管理、清掃の徹底。防災意識を高める。
		施設・設備の維持改善を講じ、安全管理を図る。⑥⑧	A		
	健康に対する意識の高揚を図る。	学年・担任と協力連携して、生徒の心身の健康の向上を目指す。③⑥⑰	A		
		感染症予防教育を行う。⑥⑭	B		
	防災意識を高める指導をする。	外部講師を招聘し、防災講話や避難訓練を実施することで、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑥⑬⑭⑮	B		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	地域活動や支部活動に参加し、地域へ貢献することに努める。⑭⑮	B	B	・令和6年度高P連全国大会(茨城県開催)に向けての準備がスタートする。そのための活動開始が焦点となる。役員のみならず全員のコミュニケーション向上。
		マナーアップ活動への参加促進を行う。⑦⑭⑮	B		
	保護者・教職員とともに参加型の活動を促進する。	校内行事や企画への積極的参加を呼びかける。⑭⑮	A		
		保護者との協働によりコミュニケーションの向上をはかる。⑭⑮	A		
P.T.A広報誌の充実を図る。	学校からの情報発信を高めるとともに、広報誌の質的なアップをはかる。⑮⑯	B			
特別活動	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感を高め、学習や生活への意欲を高める。②⑤	B	B	・生徒主体の活動をさらに発展させ、それぞれの個性を生かせる場を幅広く展開していく。
	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。②④	A		
	部活動の活性化を図る。	地域のスポーツ人材と連携し、効果的な活動を目指した指導体制を整備する。④⑭⑮⑰	B		

評価基準 A:大変良くできた B:良くできた C:普通 D:やや不十分 E:不十分

1 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	B	B	・生徒会役員や HR 委員長を中心にリーダーが育ち、学年集団が出来上がってきた。部活動やボランティアに参加する生徒も少なくない。一方、資格取得者は少なく、生活習慣が整わない生徒もいる。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。⑦	B		
	場面に応じた学び方を身につけ、基礎学力の定着を図る。	Classi や課外などを通して、自主的に学習する姿勢を養う。①②⑩	C		
		I C T教材と紙媒体を併用し、個々に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上に努める。①③⑩	B		
	特別活動への積極的参加や資格取得への挑戦を促す。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	B		
資格取得に積極的に挑戦し、自分の強みを知り、活かすことのできる生徒を育てる。⑪⑫	C				
2 学年	規範意識の向上を図る。	自ら身だしなみを整え、挨拶する習慣を培う。⑦	A	B	・進路実現にむけて、時間を守り、身だしなみを整え、あいさつを励行するなど生活習慣の見直しと改善を図る。生徒観察や情報共有により、配慮を要する生徒への特別な支援・指導と、生徒の個人差に応じた指導を心がける。
		時間を守り、清掃や係・委員などの自己の役割を果たす生徒を育てる。④⑦	B		
	学力及び学習意欲の向上を図る。	深く考え、表現する力を身に付ける授業を実践する。①②	B		
		家庭学習の習慣化により、基礎的基本的な学力を育成する。①②③	C		
	具体的な進路目標を設定し、積極的な行動を促す。	各部・各学年と連携し、自主的に行動する力を養う。②④⑭	B		
行事やボランティア活動、資格取得に積極的に挑戦する生徒を育てる。④⑤⑪	B				
3 学年	自他を尊重する態度を身につける。	最上級生としての責任と自覚を持った行動ができる生徒を育てる。②④⑦	A	A	・大きなトラブル等もなく1年間生徒達が楽しく生活できた。学年末になっても欠席者が0人と少なかった。 ・ほとんどの生徒が自分の希望する進路を決めることができた。 ・学年行事等で生徒達が協力しながら活動できた。
		互いに認め合い高め合う、謙虚な態度と寛容な姿勢を育てる。②③	A		
	自己実現に向け、チャレンジできる人材を育成する。	主体的に対話的な学びを通して、基礎学力の定着を図る。①②	B		
		資格取得やボランティアなどに積極的に挑戦し、自分を磨く生徒を育てる。④⑦⑪	B		
	社会に貢献できる力を育成する。	進路指導部や各教科と連携し、生徒の進路希望の実現に努める。⑩⑫⑰	A		
社会人としての広い視野や深い判断力を備え、主体的に行動できる生徒を育てる。②④⑩	A				
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督励して、対策指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書きができる力を養う。①⑪	A	A	・漢字検定を年1回学年ごとに受験回を分け、全員受験できるよう企画・実行する。
		反復練習によって用言の活用をできるようにし、古典読解への基礎力を養成する。①②③	A		
	文章読解力を養う。	文章を的確に理解し、自ら意見・考えを持てる力を養う。①②	B		
地理 歴史 公民	基礎・基本の定着及び歴史的思考力・地理的認識力の向上を図る。	生徒の実態や場面に即した授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。②③	A	B	・授業でのI C T活用をさらに充実させる。基礎的・基本的事項の定着とともに、生徒が自分事として課題を考察し、表現する力を養う取り組みを推進する。
		I C TやG I Sを活用し、時間・空間を意識して諸課題を多角的・多面的に考察し、表現する力を養う。②⑩	B		
	基礎・基本の定着及び現代の諸課題を主体的に考察・判断する力を養う。	生徒の実態や場面に即した授業を実践し、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	A		
		I C Tや新聞・書籍を活用し、社会に生きる一市民として現代の諸課題を自分事として考察する力を養う。②⑩	B		
数学	基礎・基本の定着を図る。	I C Tと板書を併用して、生徒の実態に合った授業を実践する。①③⑩	A	A	・生徒の実態に合わせた授業を展開した。内容についても、教科書のレベルを下げずに実施できた。 ・主体的に取り組む態度の評価を検討する。
		小テストなどで理解度を確認できるようにし、基礎・基本の計算力、応用力を高める。①③⑩	A		
	主体的に問題を解決する力を養う。	既習事項をもとに、問題を解く道筋を考えられるよう支援する。①②	A		
生徒に数学検定の受験を勧め、対策ゼミを行い、合格率を上げる。①⑪	A				
理科	科学的な基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。	板書やI C T教材を工夫し、生徒の実態に合った授業を展開する。①③⑩	B	B	・実験の難易度を下げることと、実験の回数を増やすことで実験スキルの積み上げをできるようにする。 ・主体的に学習に取り組む態度の評価について教科内で話し合う必要がある。
		小テストなどで生徒自ら基礎的・基本的事項の理解度を確認する機会を設け、課題を明確にさせる。①②⑩	B		
	身近な事物・現象に興味をもち、根拠を基に考え・説明する力を養う。	演示実験・実験を的確に実施し、対面授業と関連させ科学的現象を体験する。①②③	A		
		口頭発表やプレゼンテーション・報告書作成など、発表する機会を積極的に設ける。①②③	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

保健 体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	健康・安全に配慮し、主体的に学習に取り組む態度を養うような学習活動を展開する。②⑥	A	B	・授業と評価の一体化を目指す制度をある程度整備できた。コロナ禍の制限も緩和され、授業の幅を広げていく。観察の検討。
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	スキルテスト等を行い、運動技能の習得と課題解決に向けた姿勢を養うように努める。①②③	A		
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。②③⑥	B	B	・音楽に対する興味・関心をもち、楽しく音楽にかかわる態度と習慣を育てる。
		運動に関する理論を習得させ、健康の保持増進と体力の向上を目指す運動が継続できるようにする。①⑥	B		
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	基本的技術を身に付けさせる。①②	B		
		様々な表現方法を体験させる。①②③	B		
家庭	家庭に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①②③	B	B	・授業での効果的な ITC 活用に向けて更なる研修をする。感染対策の継続。聞く姿勢ができているので理解、実践へとつなげていく。
		芸術についての理解を深め、主体的な学習態度を身に付けさせる。①②	A		
	家族や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	安心安全・衛生面に配慮し教具や実習室を整備し、主体的な学びができるよう活動を工夫する。①②	B		
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	ICT を活用し視覚からの情報を得ることで確認・理解を深め実践する。①②⑩	B	B	・EPC だけでなく、授業の中で ICT 機器を活用して取り組むことができた。プレゼンテーションだけでなく、それ以外の活動も取り入れていきたい。
		授業の学びを活かしてホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践し、家庭や地域生活の課題を解決できる能力を身につける。④⑤⑮	B		
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	生徒の実態に応じて教材を工夫し、授業において効果的に活用する。①②③	A		
		生徒の進路実現に向け、英検受験を奨励し、対策ゼミを設け、合格率を上げる。⑩⑪	B		
情報	情報を科学的に理解し実践できるようにする。	校内プレゼンテーション大会を実施し、全体・個人のプレゼンテーション力の向上を目指す。②⑩	A	B	・情報モラルについて考えさせ、常に意識して生活する態度を育てる。
		授業における生徒の言語活動の機会を増やす。学期末等にその成果を発表する機会を与える。①②	B		
	情報化社会に参画する態度を養う。	伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付けさせる。①②③	B		
		データを効率的・効果的かつ高精度で処理・加工するための情報処理能力を身に付けさせる。①②③⑩	B		
		情報化が人間や社会におよぼす影響を理解させる。①⑦⑨⑩	B		
		情報化が及ぼす影響を克服するために必要な知識を身に付けさせる。①⑦⑨⑩	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分